

「落花生」生育情報（第2報）

平成20年8月20日
 千葉県農林水産部
 生産販売振興課

1 生育状況

本年の梅雨明けは7月19日で平年より1日早く、以降、まとまった雨の降る日が少なく、高温が続いたことから、ほ場はかなり乾燥した状態となっています。

千葉半立は、地上部の生育は平年並みですが、さやの生育は進んでいます。

一方、ナカテユタカは、地上部の生育量は平年に比べ少ないものの、さやの生育は平年並みとなっています。

病害虫の発生については、褐斑病、黒渋病の発生は並～やや少なく、白絹病の発生したほ場が一部で見られます。

調査ほ場における8月11日現在の生育状況は「千葉半立」、「ナカテユタカ」とともに「並」となっています。

作況調査成績（8月11日調査）

品種名	年次	は種日	開花期	生体重 (g/m ²)	地上部 乾物重 (g/m ²)	さや数 (個/m ²)	生さや重 (g/m ²)	さや部 乾物重 (g/m ²)	生育 状況
千葉半立	本年	5/25	7/5	2,573	505	137	424	55	並
	平年	5/25	7/2	2,842	472	115	404	53	
	対比	0	3	91%	107%	119%	106%	103%	
ナカテユタカ	本年	5/29	7/11	1,989	391	172	674	110	並
	平年	5/29	7/3	2,127	402	184	679	105	
	対比	0	8	94%	97%	93%	99%	105%	

* 平年値は平成13～19年（過去7年間）の調査データから最大・最小を除く平均

* 対比は日数、または平年比

* 作況調査ほ場設置場所 千葉半立：千葉市・八街市・香取市・芝山町
 ナカテユタカ：千葉市・旭市・白子町・袖ヶ浦市

落花生生育情報は、千葉県庁ホームページで公開しています

http://www.pref.chiba.jp/nourinsui/08seisan/04_jyouhou/0403seiiku/seiiku.html

2 これからの管理のポイント

たっぷりかん水で収量確保！

現在、落花生は地中で「さや」や「子実」が大きくなる時期であり、水分が不足すると子実の肥大が停止し、空ざやが発生して収量が大きく減少するほか、採種ほ場では、幼芽褐変症が発生しやすくなり、来年の種子に発芽障害が生じます。

降雨に期待せず、必ずかん水を行いましょう。

★たっぷりかん水のポイント★

※1回に30ミリ以上「たっぷり」かける。

※ナカテユタカは干ばつ害を受けやすいので、必ずかける。

病害虫は早期発見・早期防除を！

県の病害虫発生予報（8月8日発表）によると、予想発生量が褐斑病では「やや少」、黒渋病では「並」となっていますので、ほ場をよく観察し、**早期発見・早期防除**に努めましょう。

白絹病が発生したら、表土と一緒に株を抜きとりましょう。

また、害虫類の防除薬剤としてスミチオン乳剤、トレボン乳剤が登録されています。

褐斑病・白絹病・黒渋病の防除薬剤

病害名	適用薬剤名
褐斑病	トップジンM水和剤・トップジン M 粉剤・ダコニール 1000・バイコラル水和剤・マネージ水和剤・硫黄粉剤 80
黒渋病	トップジンM水和剤・トップジン M 粉剤・硫黄粉剤 80
白絹病	フロンサイド粉剤(収穫45日前まで)

使用基準はラベルを必ず確認してください。

★農薬は正しく使いましょう★

落花生には、①らっかせい ②豆類（種実）で登録のある農薬をラベルに記載された使用方法を守って正しく使いましょう。

農薬散布時は周辺の作物へのドリフトに注意しましょう。

「試し掘り」を行って適期収穫しよう！

落花生の掘取時期の目安は、「ナカテユタカ」は開花期後80日、「千葉半立」は開花期後95日です。収穫時期が近づいてきたら、必ず試し掘りをして、収穫適期を逃さないようにしましょう。砂地の地域は収穫期が早まるので、早めに試し掘りを行って収穫遅れに注意しましょう。

特に「ナカテユタカ」は掘り遅れによる食味の低下が大きいので、注意が必要です。

ナカテユタカの収穫適期判断法

「ナカテユタカ」は、さやの裏の色で収穫適期が判断できます。

<方 法>

- ①ほ場の中で生育が中庸な4株を掘り、それぞれの株もとのさやを5つとり、さやの裏の色を見ます。
- ②合計20個のさやのうち、その半数以上の色が淡褐色(写真+)以上になり、黒褐色(写真+++)のさやがひとつでも見られたときが掘取りの適期です。
- ③開花期から予想される適期の7日前から、2, 3日おきに試し掘りをして判定します。

